

〈どんどん遅しく〉

園児と遊ぶのは本当に楽しい。3歳児から6歳児までの、人間として一番柔らかい時期の子ども達。一緒にいるだけで、こちらも一時純な気持ちになれる。これから先のことなど何も考えず、ただひたすら遊ぶ。崖を登る、下りる、滑る、また登る。藪に入って、探検する。切り倒した木の上を歩く、切り株に乗ってジャンプする。山の下に落ちているドングリや折り紙のバツタを拾ってまた山に登る。山の上にセットしてある鈴やマラカスを鳴らす。こちらの指示を待ちきれず次々に挑戦していく園児たち。「好きな場所から登っていいよ」と言っても、敢えて難しいコースに挑戦する。初めの頃は登れなくて泣いていた子も、この時期には自分の力で上り切る遅しさが身に付いてくる。



〈こんなの見つけたよ：年少〉



〈手を差し伸べる子：年少〉



〈届かない子を抱っこ：年少〉



〈バツタを届けに：年中〉



〈スキージャンプのマネをして：年中〉



〈勲章です〉

「今日は滑るし、年少さんには難しいから、簡単なコースで登らせよう」と予定していたのだが、見ていたら一番難しいコースを登り始めた。年長さんのようにスイスイ登れないが、這いつくばって、木の枝や根をつかみながら次々に登頂！オリンピック種目に崖登り年少の部があったらきっと上位独占だ。

4月から1年近く、年少さんと時々山で遊んだが、改めて山（自然）で遊ぶことの意義を感じた時間だった。自然の中で友だちと一緒に遊ぶ、今この時間をわき目も振らず、遊ぶことに没頭する。幼児期の今だからこそ必要な時間であり体験であると思う。